

日本女子体育大学

Dance Letter

Vol.44

Japan Women's College of Physical Education

Department of Dance



SHOWCASE2023 1年生

榎本 結奈(1年生) SHOWCASE(A1クラス)

私たちは、高校生活が丸々コロナウイルスによって思うように行事を楽しむことができなかったため、今回の発表をととても楽しみにしていました。私たちA1クラスは「ワタシコレクション」という作品で、様々な環境にいる私を表現しました。この作品を通して、経験やジャンルの異なる仲間と息を合わせる難しさを感じながらも、最後には達成感を得ることができ、素晴らしい経験をさせて頂きました。振付者のお二人は練習の時から、一人一人が個性を出せる雰囲気作りをして下さったり、作品のコンセプトを話して下さいたりと、私たちも振付者の方の思いに応えたいと思い、頑張ってきました。本番に出演できなかったメンバーもいて悔しい思いもしましたが、その子の思いも含めクラスで全力を出し切ることができたと思います。

またこの舞台を通して、二チジョは先生方や先輩方と深く関わり舞台を創りあげ、見てくださる人への感謝を大切にできる気持ちが強いと感じ、改めて二チジョに来たことに自信と誇りを持ちました。

今回のSHOWCASEで味わえた景色や感謝の気持ちを忘れずに、「ワタシ」という一人の存在も仲間も大切にして、これからも成長していきたいと思っています。



神山 凜(1年生) SHOWCASE(A2クラス)

「ダンスが好き」という共通点しか見つからないまま始まったクラスのみんなとの練習。コンテンポラリーの経験が浅い私たちが、新しい環境のもと本番で楽しんで踊ることができるまでにはたくさん壁がありました。

振付者のお二人が大切にされている、「周りの空気を感じて踊る」ということがとても難しく最初は不安でしたが、音で合わせるのではなく息を合わせるという作品作りがクラスの団結力をさらに深めることに繋がったと思います。ダンスが楽しいという気持ちだけでは乗り切れない障害もありましたが、お互いの成長と作品のために切磋琢磨した仲間が17人もできたことに大きな喜びを感じています。またダンスへの情熱の方向性や、色が違うことを練習していく中で探り合い、認め合う時間が持てたことも今回のSHOWCASEで得た大きなものと思っています。何よりも尊敬するお二人の先輩に出会えたこと、そのお二人の作品に出演できたことがとても嬉しかったです。素敵な思い出と作品を残して下さった先輩のお二人とA2のクラスのみんな、SHOWCASEを開催するにあたり協力して下さいましたスタッフさんと先生方には本当に感謝しています。ありがとうございました。



黒田 音々香(1年生) SHOWCASE(A3クラス)

大学に入学して初めての舞台であったSHOWCASE。本番までの約3ヶ月間は、とても濃い日々でした。出会って間もなく、これまで過ごしてきた環境やダンスの経歴も異なる仲間と一緒に踊ることができるのか、足を引っ張らないかなど不安を抱えながら始まった練習でしたが、振付者の先輩方の熱意や、クラスの仲間の温かい雰囲気、頑張りたい!という前向きな気持ちに変わりました。私は先輩方の「振付者とダンサーではなく、一緒にこの作品を創り上げたい」という言葉がとても心に響きました。そんな言葉をくださった先輩方との練習は、テーマについて自分達なりに考え、仲間と共有したり、個人的かつ世界観を大切にしたい表現を学ぶ機会であり、新しい知識に溢れた空間での練習が毎回楽しみでした。

気持ちの面でも、一人一人の作品へのベクトルを共有する時間をいただけたことで、より19人の思いとやる気が詰まった作品ができたと思います。焦ったり、悔しかったりした時には、沢山の言葉と優しさは何度も助けられ、もっと頑張ろうと思えました。

本番では、なす菜さんと桃子さんとA3クラスにしかできない個性豊かな「BEAT」を会場いっぱい響かせることができたと思っています。今回出会った人たちと、同じ気持ちで同じ舞台上に立てたことはとても幸せで、かけがえのない学びとなりました。そして、このSHOWCASEという素敵な舞台は沢山の方々の支えがあってできたものだと思っています。本当にありがとうございました。



中野 沙紀(1年生) SHOWCASE(B1クラス)

はじめに、今回の舞台に関わったすべての方々に心の底から感謝します。クラスで踊る最初で最後の舞台であるSHOWCASEを経て、私たちはダンサーとしても一人の人間としても、心身ともに成長することができたと思います。

私たちB1クラスはモダンダンスの経験者が少ない中、授業と同時に進んでいく練習についていけるかという不安がありました。そんな中でも振付者のお二人は、少しでも楽しく練習ができるよう、常に私たちのことを考えて下さいました。練習を重ねていく中で、作品の中で個々の輝きが見えた瞬間、作品の完成度が急激に高まったと感じました。振付者のお二人が作品のテーマに込めた想いも大切にしながら、最後まで練習に全力を注いでいきました。迎えた本番では、多くの方々に作品を届けられる嬉しさや、一人一人の想いが作品に乗り、踊り切った後のみんなの表情は輝きに満ちていました。改めて、このB1クラスで1つの作品を踊ることができ、お互いに刺激し合い、共に成長することができて、本当に良かったと思いました。

一生に一度しか味わうことのできない貴重な経験を得ることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。この経験を今後の活動や人生に活かしていきたいと思っています。



原 菜々子(1年生) SHOWCASE(B2クラス)

SHOWCASEを通して、踊りのジャンルや育った環境も異なる仲間と、創ることや踊ることの楽しさ、感動を味わうことができました。

初めてB2のみんなと振付者のお二人と顔を合わせ一人一人の踊りを見た時、B2クラスはとても個性が強く、踊ることが大好きで、自身のジャンルを極めて懸命に努力する人ばかりだと感じました。リハーサルを繰り返していく中で、作品に対して互いの意見や思いを話し合ってみると、個性が違うからこそ新たな発見があり、より想像が膨らんでいきました。それぞれが高め合いながら進んでいく期間は、とても刺激的で充実していました。そして、作品完成へと近づくにつれ、私たちの心や踊りに一体感が生まれていき、本番では17人全員で最高の景色を見ることができました。私たちB2クラスの個性を振付者のお二人が素敵に際立たせてくださったからこそ、踊っていて心地の良い、唯一無二の作品が生まれたのだと思います。

「何かに頼って生きてもいい」先輩方から頂いた言葉です。人は一人では生きていけないのだと強く感じました。これからも沢山の方々に出会い、助け合いながら、有意義なニチジョ生活を歩んでいきたいと思います。

改めて、この舞台に関わってくださった方々に心から感謝いたします。



山形 和奏(1年生) SHOWCASE(B3クラス)

緊張しながら迎えた4月の初回練習。出会ったばかりの仲間と慣れない環境の中、今までとは異なるジャンルを踊る私たちにとっては挑戦することばかりでした。お互いのこともよく分からないまま、短い練習期間で作品を創り上げることができるかとても不安でしたが、一人一人と向き合ってくださいる優しい先輩方のおかげで作品と共に私たちも成長することができました。

私たちB3クラスの作品のテーマは「おやさいばすけっと」でした。この作品には、誰かに頼ることなく自分に自信を持ち、自立してステージに立って欲しいという先輩方のメッセージが込められています。周りの子の踊りを見て、「あの子のように踊りたい!」と刺激を受けるばかりでしたが、練習を重ねていくうちに「私にはこんな表現ができる!」と自分に自信を持つことができました。それぞれの個性がこの作品には必要なのだと思いました。本番は、全員が最高の笑顔で踊りきることができました。私たちの個性を生かして、みんなが主役になれる作品を考えてくださった先輩方には感謝の気持ちでいっぱいです。

本番当日、エンディングはマスク着用となってしまいましたが、多くの方に見ていただけてとても嬉しく思います。SHOWCASEに関わってくださったすべての方に感謝申し上げます。



SHOWCASE2023 振付者

荒井 麻央・戎 美佑紀(3年生) SHOWCASE振付者(A1クラス)

SHOWCASEの振付者になり、リハーサル期間は振付や構成を考えることの楽しさと同時に、作品を創作する難しさを実感しました。戎と振付をしていく中で、1年生にどうやって「ワタシ」を表現してもらうか、どのようなニュアンスで、作品にどんな意味を持たせるか常に考えてきました。自分の個性を出してほしい、と振付者の理想を押し付けてしまっていないか不安になりながらリハーサルを行っていました。しかし本番では、それぞれが自分自身の「ワタシ」をダンスで表現してくれて、1年生の良い表情も見ることができ感動しました。A1クラスの振付者としてSHOWCASEに携わることができ、良い経験になりました。(荒井 麻央)

「ワタシコレクション」を創作するにあたって、この構成や振付は何を意味するのか、何を伝えたいのか、ダンサーにどういう風に表現して欲しいか、とにかく深く深く考え続けました。その中で、共に振付をした荒井との意見の食い違いや、リハーサルの中で1年生とどう関われば私たちの理想としている形を表現してくれるか悩み、常に試しながら創作に取り組んできました。SHOWCASE本番までの期間で自分の創作力や発想力の無さを痛感したと同時に、ここから更に成長できるような気がしました。この経験を活かし、3年生パフォーマンス、そして卒業公演では観ている人の脳裏に焼き付くような作品を創りたいと思います。(戎 美佑紀)



中村 美空・渡邊 愛蓮(3年生) SHOWCASE振付者(A2クラス)

これからニチジョで沢山のことを学んでいく1年生の初めての作品を振付させてもらうことになり、この機会を通して、ありのままのゼロの身体でダンスと向き合っていくってほしいという気持ちがありました。時にはやったことのない難しい注文に戸惑うこともあったかもしれませんが、最後にはA2クラスの全員が舞台上で輝いて、胸を張って踊っている姿を見ることができて本当に幸せでした。

素晴らしい経験をさせていただき、本当にありがとうございました。この経験を糧に、今後ももっと深くダンスと向き合っていきたいと思います。(中村 美空)

私たちは、母親と子供における愛着理論に基づく作品を創作しました。ダンサーは回数を重ねることに、オリジナリティのある踊りに近づき、作品の世界観はみんなが創り上げてくれたと思います。本番は一人も欠けることなく舞台上立つことができ、客席から見たみんなの姿はとても輝いていました。そして自分たちがダンサーとして出演した際とは違う、作品を披露することへの責任感を感じました。数ヶ月間A2クラスと過ごした時間は、価値のあるものでした。公演を開催してくださった皆様に感謝の気持ちを申し上げます。ありがとうございました。(渡邊 愛蓮)



堤 なず菜・立矢 桃子(3年生) SHOWCASE振付者(A3クラス)

「振付者」という役割になることは初めてでしたが、自分自身の中でとても大きな経験になりました。「ダンサー」とのコミュニケーションを通して、新しく多彩な要素が加わり、今回の舞台上でしかできない唯一無二の作品を創り上げることができました。一から作品作りを行っていく中で、振付者とダンサーの関係性がとても重要な要素となることを、この舞台を通して改めて認識することができました。また、このように貴重な経験をさせてくれた相方の立矢、A3クラスをはじめ、SHOWCASEに携わった皆さんに感謝の気持ちを忘れずに今後も精進していこうと思います。(堤 なず菜)

今回A3クラスと相方の堤と共に、満足のいく作品を創りあげ、最高の形で本番を迎えられたこと、そして初めましての日から本番までの約3ヶ月で、様々なことを吸収して成長していく17人の姿を見届けられたことを心から嬉しく思います。みんな本当にありがとう。何より、この舞台を企画運営してくださった先生方、助手さん、学生スタッフの皆さん、観客の皆様、関わってくださった全ての方々への感謝の気持ちでいっぱいです。このような素晴らしい経験を本当にありがとうございました。この経験を糧に、今後も学生生活を精一杯送っていきたいと思います。(立矢 桃子)



板橋 玲奈・伊藤 颯希(3年生) SHOWCASE振付者(B1クラス)

1年生の頃からずっと憧れだったSHOWCASEの振付者を選んで頂き、とても貴重な体験をさせて頂きました。新型コロナ感染症対策の緩和により授業が対面で始まったため、オンライン学習で生まれていた、練習できる時間や場所も減り、作品が完成するか不安でした。また、振付者2人は主にモダンダンスに取り組んでいますが、1年生クラスにモダンダンスの経験者が少なかったため、やろうとしている振付ができるのかなどの不安も沢山ありました。しかし、一人一人が積極的に練習に参加してくれたおかげで、私たちの想像以上に素敵な作品になりました。B1クラスの振付者になれて良かったです。ありがとうございました。(板橋 玲奈)

3年生になった今、再び振付者としてSHOWCASEに携わることができ、大変貴重な経験をさせて頂きました。1年生が入学して間もなく練習が始まり、クラスの個性を引き出しながら作品としての統一感を出すことや、振付者の理想をどう実現させていくかなど、想像以上に悩み試行錯誤を重ねました。モダンを主ジャンルとする学生がいない中、作品に対して真剣に向きあってくれる姿、毎回の練習の中で進化していくB1クラスに助けられ、1つの作品として形にすることができました。いつか同じ舞台上で同じ作品と一緒に踊れる日を楽しみにしています。ありがとうございました。(伊藤 颯希)



水谷 茉椰・山岡 茉緒(3年生) SHOWCASE振付者(B2クラス)

4月から本番までを通して、入学したばかりの皆に伝えられることは何かを模索した期間であったと感じています。2年前に先輩方から得たものを繋げると共に、今まで積み重ねてきたという私の矜持を持って創作に励みました。イメージを大切にすること、1人で踊るのではなく皆で踊るということ、全て伝えられたのかわかりませんが、彼女たちは真摯に受け止め考えてくれ、本番では入学当初とは比べものにならない、とても美しい姿になっていました。その姿を見て、この期間は意味のあるものだったと、自分の誇りとなりました。

改めて、SHOWCASEに関わってくださり、私たちを支えてくださった皆様に心から感謝いたします。(水谷 茉椰)

1年生にとってニチジョでの初舞台。振付者として不安や責任を感じるが多々ありましたが、その度にいつもまっすぐ作品と向き合ってくれるB2のみんなの姿に何度も救われ、納得のいくものを創り上げることができました。みんなが見せてくれたあの素敵な景色、絶対に忘れません。私たちの拙い言葉やイメージを一生懸命汲み取り、カタチにしてくれて本当にありがとう。そしてパートナーにも心からの感謝を伝えたいです。尊敬する部分が互いにあったからこそ、歩みを止めず、作品をより良いものに追いつけることができました。

この経験は私にとって、かけがえのない宝物です。SHOWCASEに関わってくださった皆様、本当にありがとうございました。(山岡 茉緒)



笠原 明・木村 美月(3年生) SHOWCASE振付者(B3クラス)

1年生の時に夢見たSHOWCASE振付者は、1年生の大学生生活初舞台に携われる有り難さもあれば、良い作品を創り、思い出に残るようなものにしなければならないという、責任もありました。そんな中、日々葛藤し、B3クラスの人々と一緒だったからこそ完成した作品になったと思います。テーマにも意味を込めたのですが、個々の存在を大切にしたいと考え、一人一人の持つ良さや個性に気づくことができ、作品に込められていたら嬉しいです。それぞれのダンスから、私たちも1年生同士もたくさんの方のことを吸収し合えた3ヶ月間だったと思います。(笠原 明)

舞台を創るにあたり、ダンサーや振付者だけではなく、たくさんの方の支えがあってはじめて成り立つものだと改めて感じました。振付者になることには不安もありましたが、入学して間もない1年生をまとめつつ、作品を創っていくことができたのはパートナーの存在がとても大きかったと感じます。

最後になりましたが、素晴らしい舞台を創り上げてくださった先生方、スタッフの皆様、保護者の皆様、改めて感謝申し上げます。SHOWCASEを無事、大成功裡に終演できましたことを幸せに感じております。ありがとうございました。(木村 美月)



SHOWCASE2023実行委員長

長嶋 瑠菜(3年生) SHOWCASE実行委員長

今回、実行委員長としてSHOWCASEに携わせていただきました。本番までの約3ヶ月で多くの問題にぶつかり、舞台を創ることの大変さを学ぶことができました。本番前日までスタッフの配置変更や当日の動きの変更点が多く、出演者やスタッフの方を不安にさせてしまうことが多くありましたが、皆さんの協力と素敵な作品を観客に届けたいという気持ちにとっても助けられました。当日、客席がほぼ満席になっている様子を見て、ありがたいという気持ちとともに緊張や不安が押し寄せました。しかし、相談に乗り、励ましてくれる同期や率先して仕事に取り組み協力してくれる後輩、私が気づかなかった問題点に気づき一緒に解決策を考えてくださる先輩方、そして先生方や助手さんのおかげで落ち着いて本番を迎えることができ、無事に舞台を成功させることが出来ました。このような素敵な舞台に携わることができて本当に良かったです。

次は、私たち3年生が3年生パフォーマンスで出演者となります。今回学んだこと、感じたことを忘れずに、感謝の気持ちをもって頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。



前期授業

鵜ノ澤 純奈(2年生) 野外上演法

今年度の野外上演法では「High School Musical」をテーマに作品を創作しました。私は学年の全体リーダーを務めさせて頂きました。約100人をまとめるのは初めてだったので、どのようにコミュニケーションを取り、進めていくかとても悩みながら試行錯誤を繰り返しました。授業時間外にも会議を行い、連絡を取り合い、毎授業のために準備をしていました。リーダー同士、お互いの意見を否定することはあまりなく、さまざまな案を提案し、それを肯定し合うとても良いチームだったと思います。他にも積極的に振りを教えあったり、授業の準備をしてくれたりする人が多く、助けられました。活動中に私が体調を崩してしまうこともありましたが、沢山の方に助けて頂き、約4ヶ月間リーダーを務めることができました。またリーダーという立場に何が大切なのか、この4ヶ月間を通して学びました。

本番では天候に恵まれ、無事に発表を終えられたことを嬉しく思います。そして、同期全員で一つの作品に向き合ったこの約4ヶ月間はきっとこれからの私たちにとって大切なものになっていくと思います。たくさんのご指導をくださった渡辺先生、助手の安田さんをはじめ、支えてくださった先輩方、そして同期のみんな、本当にありがとうございました。



集中講義

高田 虹(3年生) ダンスカレント

5日間の集中講義を通じて、ダンスの新たな次元に触れる貴重な体験をしました。この講義では、舞台照明と音響技術の重要性を学びます。照明がダンス作品の雰囲気を変え、音楽が感情を表現する手段としての役割について深く理解できました。さらに、実践的な経験を得る機会も豊富でした。私たちは照明の仕込みや音響の編集作業に取り組み、自身で照明案を考え、音楽を制作しました。これにより、照明と音楽がダンス作品に与える影響を実際に体験することもできました。中でも、他のグループ作品を観ることができたことが学びにつながりました。同じ振付のダンスを踊っているにも関わらず、照明と音楽の違いによって作品が異なる表情を魅せたことや、各グループが独自のアプローチを取り、照明と音楽の工夫で作品の多様性を豊かにしていたことが印象的でした。

この講義を通じて、私たちはダンス芸術の新たな側面を発見し、舞台照明と音響技術の重要性を実感しました。自身のクリエイティブな思考と技術向上に大きな影響があり、他のグループ作品を通じて、ダンスが芸術と科学の融合であることを深く理解しました。ダンスカレントは、ダンス愛好者やクリエイターにとって、新たな可能性を切り開く素晴らしい体験です。



岩下 想蓉夏(3年生) 現代の舞踊論

「現代の舞踊論」はダンス・サイエンス、すなわち科学的視点からダンスについて学ぶものでした。感覚的にダンスを踊ることが多い私にとって、ダンスを科学的に捉えるということは、新鮮であり、ダンスの新たな切り口だと感じました。特に印象に残ったのは解剖学から見るダンスです。私はコントラクションが苦手な、生まれつきの骨格の構造上、可動域が狭いのだろうとあきらめていました。しかし解剖学を受講して、腰椎の前弯というものを知り、まさに自分の状態に当てはまっていたが、そのリハビリテーションや予防法を学ぶことによって、多裂筋や腸腰筋の強化がその症状を改善するということがわかりました。あきらめてしまっていた私にとって具体的なトレーニング方法を知ることができたのは大きな糧となりました。

その他にも、生理学ではダンスの運動量の計算、栄養学ではダンスを生涯続けていくのに求められる食生活などについて学び、ダンスを多面的に学ぶことができました。ダンスを専門としない様々な領域の先生方からダンスに焦点を当てた講義を受講できる機会は、他にないと思います。とても貴重で学びの深い授業でした。



清水 心詠(2年生) ボディ・コンディショニング

8月5日から8日にかけて行われた、今田康二郎先生によるボディ・コンディショニングの講義では、とても濃い時間を過ごすことができました。講義の前半は、ジャイロキネシスという、機械を使わずに椅子を使ったエクササイズを行いました。バンドを使い、自分自身に身体の使い方を本当の意味で理解させるなど、普段私たちは身体を駆使しているはずなのに、あまり使えていなかったり認識できていなかったりしていたことを発見する機会となりました。講義後半では、人体の構造など、ダンスに活かしていけるような情報を教えてくださいました。その中でも、私たちが理想とする身体のラインを突き詰めていくことは、身体にとってやさしいものだけではないという先生の言葉に衝撃を受けました。他にも、目から鱗が落ちるような情報ばかりでした。負担をかけない身体の使い方を学ぶことができ、舞踊を長く続けていくためには必要な学びだったと感じています。

この4日間を通して、踊るだけでなく、いつもと違った角度から自分自身の身体と向き合うことができ、有意義な講義をしてくださった今田先生に心から感謝致します。ありがとうございました。



守屋 乃愛(3年生) フォークダンス

4日間の集中講義を通して、山梨先生のお話をたくさん聞くことができ、フォークダンスを学ぶだけでなく、自分がダンサーとしてまた指導者としてどのように活動していくか考え直すよい機会になったと思います。フォークダンスは、動きやフォーメーションの構成が比較的単純で簡易的なものが多く、普段からダンスをやっていない子供からお年寄りまで幅広く楽しむことができるダンスです。子供向けのリトミックや、学生同士のコミュニケーションツールとして使われることも多くあるため、今回の授業では、フォークダンスをただ踊るだけでなく、それをどのようにしたら他人に上手く伝えることができるのかに重点が置かれました。自分が指導者の目線になって考えると振り自体は簡単ですがすぐに覚えられないものでも、実際にそれを紙に起こすと、文字だけでは足りなかったり、構成の変化をどのように図解にするかなど、分かりやすく表すことの難しさを感じました。また1人では踊ることができないので、人と人との繋がりや出会いの大切さを先生のお話を通して学びました。実際にフォークダンスを踊る機会は少ないですが、ここでの出会いが何かに繋がると信じて、出会いを大切にしていきたいです。



鈴木 陽代里(1年生) タップダンス

私はタップダンスを踊ることが初めてでしたが、丁寧に基礎から教えていただき、どこで音を鳴らしているのかという仕組みも知ることができたので、それだけでタップダンサーになったような気分でした。タップダンスは、知識がゼロだと全くできないと思うので、集中講義で教えていただける機会があり、とても為になりました。またタップダンスを実際にやってみて、上半身がとても大事だと感じました。上手くできないと思った時に、先生の真似をして上半身を使ってみると、すぐ音がなりやすくなりました。ハウスの経験はありませんが、ハウスでも上半身が重要だと聞いた事があったので、足をよく使うダンスでは上半身が重要だという意味が理解できた気がします。そして私が特に楽しかったことは、みんなで課題曲を決め、グループに分かれて作品を創ったことです。振りりはほとんど先生に考えていただきましたが、部分的には自分達で決められるところがあったり、構成は完全にグループごとに自由に創ることができたので、それぞれグループの色が出ていて、最終日の発表はとても盛り上がりました。

この5日間、毎日早起きして絶対に遅刻しないように気を張って大変でしたが、とても良い思い出になりました。



仲村 らく(3年生) 表現運動学演習(演技)

私が今回の集中講義を受けて特に印象に残ったことは、演技には自分の中でリアルに体感するメソッドを利用した演じ方と、メソッドを使わず技術で演じる演じ方があるということです。どちらの方法が良い、悪いではなく、自分に合った演じ方を見つけることが重要であることを学び、これは舞踊においても通じることだと感じました。この他にも、演技の歴史や世界の劇場の違いなど、多くの興味深い話を聴くことができ、とても勉強になりました。

実技では、人の癖を真似したり、即興芝居を行いました。グループで1シーンをつくるという最終課題では、平田オリザさんの台詞が各場所で同時進行していくというとても斬新な台本に四苦八苦しました。特に、台詞や動きのタイミングをぴったり合わせなければならぬ点が難しかったですが、チーム一丸となって課題に取り組む楽しさやバラバラだったパズルのピースが少しずつはまっていくような感覚が、とても楽しくやりがいを感じました。「演技」と「舞踊」は共通する部分が多くあることを改めて実感することができたため、今回学んだ知識や技術を活かし、自分の表現をもっと追求していきたいと思いました。



部活動・サークル活動

長谷部 桃子(3年生) ダンス・プロデュース研究部(管麻衣子さんWS)

管麻衣子さんは、よく知られるワガノワバレエ学校の大学で、ロシア政府からすべての支援を受けて勉強されています。また、サンクト・ペテルブルクの私設のバレエ団でもダンサーとして踊っていた本学の卒業生で、普段のレッスンではなかなか学べないワガノワ・メソッドを体験でき、とても貴重な経験になりました。エポールマンの使い方や腕の動かし方、細かい足の動かし方まで一人一人丁寧に、具体的に指導して下さるので理解しやすく、また管さんによるお手本が何より綺麗で美しかったこともあり、あらためてバレエの奥深さを実感しました。特にエポールマンの使い方では、もっと大きく上体を使う必要があるということも教えていただき、実際に見せてくださった管さんのエポールマンにはしなやかさの中にも力強さを感じられ、まだまだ自分の中で研究が必要だと思いました。1時間半のバーレッスン、1時間半のセンターレッスンで、3時間充実した時間でした。



金井 羽那(4年生) モダンダンス部(全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸))

私たちモダンダンス部は、8月7日～8月10日に開催された第35回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)に出場させていただきました。創作コンクール部門では、作品「残照」で特別賞(感性にあふれたすぐれた動きのテクニック)を受賞することができました。また参加発表部門の作品「祭りの夜」では、1・2年生のパワー溢れる踊りをお客様にお届けすることができました。今回舞台上立つことができたのは、ご指導をくださった先生方、支えてくださった全ての皆様のお力添えやご声援があったからこそだと心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。

作品の創作過程では困難なこともありましたが、本番では最後まで全力で踊りきることができ、本当に嬉しかったです。本年度は新型コロナウイルス感染症対策が緩和された上での大会開催となり、仲間と舞台上で踊ることができる環境のありがたさを改めて実感しました。毎日ダンスに取り組むことができる環境に感謝し、今後も精進し続けていきたいと思っております。そして今大会で学んだ数々のことを次の舞台に生かせるよう、これからも活動していきたいです。



筒井 純(4年生) ソングリーディング部(2023ICU世界チアリーディング選手権大会)

私たちソングリーディング部は、2023年4月19日～21日にアメリカ合衆国フロリダ・ディズニーワールド内で開催された、2023 ICU 世界チアリーディング選手権大会にPerformance Cheer Jazz部門の日本代表として出場させていただき、第2位を獲得しました。

コロナ禍になり、4年ぶりの国際大会への出場でした。作品を創り上げる過程では、不安や焦りの中で幾度となく壁にぶつかり、憧れの舞台と自分たちの現状とのギャップに押し潰されそうな時もありました。しかし、演技を通してどんな時も一番近くで支えて指導してくださる先生方、家族、そして共に闘う仲間への感謝の気持ちを伝えたいという気持ちが私たちを奮い立たせました。国境を越えた各国の選手たちと、互いにたたえあえる素敵な舞台に立てたことが結果以上の経験として、とても嬉しく感じています。

私たちが恵まれた環境で活動できていることも、望んだ大会に出場できたことも、沢山の方のお力添えがあってこそだと実感しています。今後も、日本女子体育大学の一学生として、国際大会で得た経験を糧に、観てくださる皆様の心に届く演技を目指して、一日一日を大切に活動していきます。



吉野 百葉(3年生) 舞踊部(舞踊部発表会)

舞踊部では、8月24日に舞踊部発表会2023夏を開催しました。新型コロナウイルス感染症の流行が始まって以来、約4年ぶりに学外からの観客を迎えての開催でした。昨年は学内招待客のみだったため、少し閑散とした雰囲気でしたが、今年はありがたいことにほぼ満席でホール全体が賑やかで温かかった印象でした。間近で観客の熱量も伝わり部員一同、ダンサーとしての意識がより高まったのではないかと感じました。舞踊部発表会では、コレオグラファー、ダンサーとして携わることはもちろん、音響や照明、発表会の運営すべてを部員が行います。主にダンサーとして活動する学生が多い中、あまり経験することのないスタッフの仕事を学ぶことができるのは舞踊部の良さが詰まっているなど感じています。またコレオグラファーであれば、自分で作品を創作する挑戦、そこから得られる経験や学びがあり、またダンサーであれば自分の挑戦したいジャンルを先輩や同期から学ぶことができ、この先のダンス人生でより追求したいジャンルが増えるきっかけにもなります。

そして今回は4年生の引退公演でした。様々なことを教えて下さった先輩方、お力添えいただいた先生方や講師の方への感謝の気持ちが詰まった発表会になったのではないかと思います。



竹内 七海(3年生) ダンス・プロデュース研究部(折原美樹さんWS)

6月27日ダンス・プロデュース研究部では、国内外を問わず活躍されているアーティストの折原美樹さん、アシスタントの島村さん、ピアニストの野沢さんにお越しいただきワークショップが行われました。

モダンダンスの開拓者といわれる、マーサ・グラハム直伝のテクニックでの身体の使い方を折原さんの言葉と身体を通して丁寧に教えていただき、床で行うエクササイズからプリエやタンジュ、ペアでのコンタクトワークを行い、最後はコンビネーションを踊りました。

折原さんのご説明は例えがとて分かりやすく、また踊ることにおいて解釈の仕方も大切であることを学びました。お話しいただいたのは「コントラクションとリリース」についてです。今までの私は、その意味を「収縮と解放」だと思っていたのですが、実際はどちらの動きも伸び続けていて決して固めることなく動き続けている、というようにも捉えられることは新たな発見でした。

このワークショップを通して、今までの自分とは異なる新しい身体の使い方を学び、踊りへの意識が変化しました。また実際に生演奏で踊ることで音楽の心地よさ、大切さをより実感しました。折原さん、島村さん、野沢さん、そしてワークショップ開催において関わってくださった方々、大変素敵な時間をありがとうございました。



編集後記

最後までご覧いただきありがとうございます。学内の行事や授業などの活動を通して学びを得る機会が多くありました。ダンス学科での活動の様子をダンスレターを通してお伝えできることを嬉しく思います。

これからも学生たちの活動の様子を伝えていきますのでよろしくお祈りします。

大木ことり、宮田慎加

— 大学 —

<2023年度オープンキャンパス>

- 2023 12/17(日)
- 2024 3/20(水・祝)

— ダンス学科 —

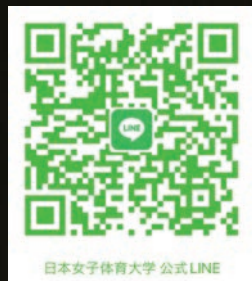
<高校生のためのダンス・サテライト授業>

2023.12/17(日)
@日本女子体育大学 総合体育館 多目的ホール
※今年度はオープンキャンパスと同時開催

<第22回ダンス学科卒業公演>

2024.1/25(木)
@府中の森芸術劇場 どりーむホール

<日本女子体育大学イベント・入試情報>



日本女子体育大学 Dance Letter

Vol.44

Japan Women's College of Physical Education
Department of Dance

発行日 2023年11月23日(木)

designed by Yusuke Itoh